



とさしみず ジオめぐり

土佐清水がもっと楽しくなる/
ジオ視点の土佐清水案内

大岐の浜《後編》

知ると、世界がよく
見えてくる!!の巻!



浜辺には二枚貝が多くいて、波乗りをしている貝はナミノコガイだよ。
あと、砂の下にもハマスナホリガニやキンセンガニなどいろんな生き物がいるよ。
砂の上をじっくり見ていると、生き物の気配を感じるよ。



今回も前回に続き、ジオパーク少年は土井専門員、森口専門員と大岐の浜に来ています。



お～、青い海！白い砂浜！そして、たくさんのサーファーの皆さん！やっぱり大岐の浜は気持ちいいね～。
ところで、大岐の浜ってどうやってできたがやろか？
たぶん、足摺岬の花崗岩が砕けた砂が運ばれてきたがやね。



うーん、どうだろう…大岐の浜があるのは付加体の地層である「清水層」だね。
清水層に囲まれた低地に川が運んできた土砂が溜まってできた平地と海の境にできたんだ。



でも川からきた土砂やったら付加体の地層やろうけん、こんなに白くないはず、海の向こうに足摺も見えるし、そこから来たがやと思うけん。



うーん…確かに、君が言うように、昔からこの砂浜が白いののは足摺岬の花崗岩だと考えられていて、昔の観光ガイドブックや案内看板にはそのように書かれているよ。
でも、現在では、有孔虫殻や貝殻が砕かれたものが多いと考えられていて、今、分析をしているところなんだ。



▲大岐の浜の砂
波打ち際には小さな貝殻がたくさん落ちている



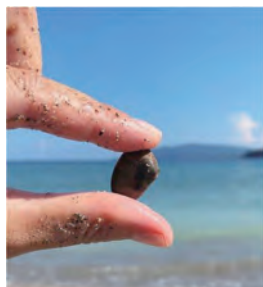
へ～、研究でこれまでの定説が変わってくるがやね。
新しい論文出るのが楽しみやね。
でも、磯の浜とちがって、砂浜はあんま生き物がおらんけん寂しいね～。



そんなことはないよ。
波打ち際をよく見て。
波乗りをしている貝がいるから。
ほら、今動いた！



本当だ。
小さい貝が波乗りしよう。
大岐で波乗りするのはサーファーの人らだけじゃないがやね。



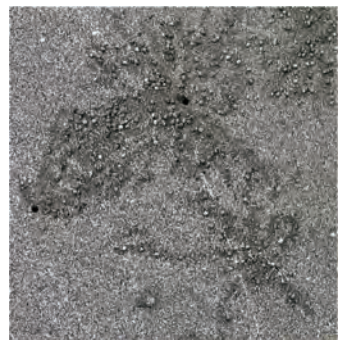
▲ナミノコガイ
地元ではノウナシと呼ばれ、食されている



うーん、そうながやろうか。
よくわからんなあ…
あ！ここ、小さいお団子がたくさんある！何、これ？



よく気づいたね！
それは生き物の仕業だよ。
コメツキガニといって、砂の中におうちを作っているんだよ。私たちには見えないだけで、砂の中には生き物たちの楽園が築かれているんだよ。



▲コメツキガニの巣穴
砂の中の餌を食べ終えたら、砂を団子にして巣穴の外に出すらしい



そうか～、僕が見ようのが世界の全てやないがやね。見えんところで楽しく生活しよう生き物もおるがやね。



すごい！大事なことに気づいたね。
見えるものだけでなく、見えないものを想像すること、見えない世界のことを知ってことは科学の世界ではとっても大切なことだよ。知ること、はじめて見えてくるものがある。
英語でわかったということ“I see”っていうでしょう。
わかるってことは見える世界が広がるってことでもあるよね。



そういえば、僕もジオパークのこと知る中で、前に比べて、いろんなものが見えるようになったね。
これまでただの石やったが、これは足摺の花崗岩でマグマが冷えたがや～とか、竜串の砂岩で、ここに化石が見える～とかね。



そうやって、いろんなものが細かく見えてくると、とても楽しいよね。
私も本当は生物が専門だから、はじめは石のことあまりわからなかったんだけど、ジオパーク専門員になって色々わかるようになって、とても楽しいよ。
知ってことは、君の世界を広げることになるはず。



そうやね。こうして、ジオパークを通じていろんなことを知って、スケールの大きな大人を目指していくよ。
今日も、楽しい散策ができて楽しかった。
土井さん、森口さんありがとう。
また、おもしろいジオサイトへ連れて行ってね。

